



# 宗岡二小だより

学校教育目標

○よく考える子 ○やさしい子 ○たくましい子

志木市立宗岡第二小学校

令和3年度 No 7

令和3年10月1日

志木市上宗岡3丁目13番1号

TEL 048 - 473 - 2305

児童数10月1日現在389名



## 「鬼滅の刃と人権教育」

校長 可知 良之

コロナ禍で右往左往していた昨年11月一人の少女（当時小学校6年生）が自ら命を絶ってしまいました。原因はいじめです。約1年経ち最近になって公表されました。新聞の記事によれば学校で配付したタブレット端末がいじめに利用されたと、その利活用が問題とされていましたが果たしてそうなのでしょうか。情報に対するモラルや人権に対する教育は十分できていたのだろうか、原因はもっと違うところにあるのではないかと感じてしまいます。

志木市では平成28年度からいじめ予防の取組として「弁護士さんによるいじめ予防授業」を行っています。当時、埼玉県では初めての取り組みでしたのでテレビの取材などもたくさんありました。今では8校全ての小学校で取り組み、本校でも2学期に実施予定です。この授業では遺族の了解を得て、自死を選んだ小学6年生の遺書（コピー）を弁護士さんが子どもたち一人一人に渡し読んでもらう場面があります。手書きの遺書を手にしたときの子どもたちの反応はそれまでの楽しい雰囲気から一変します。いじめという行為が引き起こす辛く厳しい現実が惨いことであることを、どの子どももすぐに感じ取ってくれます。弁護士さんは『いじめは重大な人権侵害になるのです。』と子どもたちに訴えかけます。人と人との関わりをもって暮らしていく上で大なり小なりのトラブルは付きものです。大人でもそうしたトラブルに悩まされることがしばしばあります。未熟な子どもであればなおさらです。トラブルが生じた時、相手に対する人権意識が少しでもあれば、いじめになることはありません。しかし、極

めて残念なことです。未熟な子どもたちは無視をしたり、辛らつな言葉を投げかけたり、暴力を振るったりする行為が相手の心と軀（からだ）を深く傷つけ人権を侵害しているということに全く気がついていないことがほとんどなのです。相手が深く傷つくことを想像できないのです。いじめという字を漢字では「苛め」と書きます。漢字で書くといじめが苛酷（かこく）であることが伝わってくるようです。いじめは昔からあったものですが SNS が子どもたちにも普通のものとなった今、より辛辣な刃となっているのかもしれない。

昨年秋に公開された映画「鬼滅の刃」が大ヒットしました。日本中の子どもたちのみならず、大人までもが鬼滅の刃に心を動かされ涙を流し映画を繰り返し鑑賞したと聞きました。今では全世界70カ国以上の国で翻訳され上映されているそうです。なぜ、これほどまでに人の心をつかんだのでしょうか。私なりに考えてみました。その答えは、今多くの人たちが求めているものがこの映画の中にはあったからではないでしょうか。作品を貫く大きなテーマは「愛」であると私は思います。兄弟愛、親子愛、共に戦う友に対する愛、そして、倒すべき相手である鬼であってさえ、かつては心優しき人間であった者として許していく人間愛、様々な愛を感じさせる所に魅了されたのではないかと・・・人権教育の本質は人に対する愛だと思います。いじめ、虐待、体罰、どれも主体が変わるだけで、子どもの人権を著しく侵害する行為です。そこには愛はかけらもありません。